

「DV」についての研究論文には、こんなのがあります！！

★2Fの資料室4「紀要室」にあります。所定の棚にしているので自由に見ることができます。

発行	研究論文
大分大学大学院福祉社会科学研究	紀要第九号 論説「家族尾案暴力の研究(1)－韓国ドメスティック・バイオレンス対策－」 執筆者:大分大学教授 二宮 孝富・平塚 良子・根笈美代子ほか
大分大学大学院福祉社会科学研究	紀要第十六号 論説「地方自治体におけるドメスティック・バイオレンス対策と課題－条例と推進体制の比較から－」 執筆者:大分大学教授 平塚 良子・椋野 美智子 オックスフォード大学教授 テレザ・スミス
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－ 4 ドメスティック・バイオレンスを根絶するためには 専門家会議報告書
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－ 8 ドメスティック・バイオレンス 援助アセスメント試論 委託調査報告書
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－09 ドメスティック・バイオレンス 家庭内における女性と子どもへの影響 援助者のためのワークショップ ワークショップ講師:東京女子医科大学 加茂 登志子・富士短期大学助教授 後藤 弘子・セラピスト 関野 真理子ほか
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－10 ドメスティック・バイオレンスや性暴力における援助のあり方 女性の被害者に対して、援助者はとくに何を留意すべきか 研究メンバー:心理カウンセラー 池木 由美子・心理カウンセラー 遠藤 みち恵・大泉病院精神科医師 三浦 勇太ほか
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－11 ドメスティック・バイオレンスにおける援助のあり方 エンパワメントと、カップル間のコミュニケーションの可能性 研究メンバー:創価大学教授 園田 雅代・社会法人「家庭問題情報センター」 竹前 ルリ・精神科医 中村 伸一ほか
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金00－12 ドメスティック・バイオレンスにおける援助のあり方 DV加害者への取り組み－アメリカでの手法を参考に－ 研究メンバー:駒澤大学助教授 伊藤 茂樹・富士短期大大学助教授 後藤弘子・お茶の水女子大学助教授 坂本 佳鶴恵ほか
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金02－ 8 飲酒とドメスティック・バイオレンス 委託調査報告書 アルコールとDV研究会 研究代表者:国立精神神経センター精神保健研究所成人精神保健部 清水 新二
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金03－ 2 大都市と農村地域におけるドメスティック・バイオレンスへの意識および実態の比較 研究代表:お茶の水大学 坂本 佳鶴恵
女性のためのアジア平和国民基金	アジア女性基金04－ 2 在日外国人女性のドメスティック・バイオレンス被害に対する社会的資源－その現状と課題 主任研究者:東京女子医科大学大学院 助教授 李節子